

釧路新聞・北海道新聞に掲載！

第65回研修会(北海道・標津)の活動が、2012年2月10日金曜日の釧路新聞と、
2012年2月11日土曜日の北海道新聞に掲載されました!!

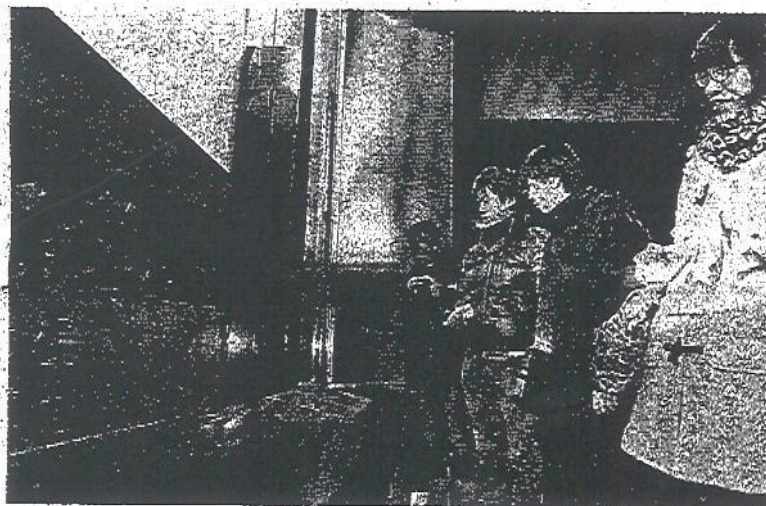
2012年2月10日(金) 釧路新聞

新釧路
新聞

SENSHIN

初の留学生受け入れ

標津で体験型観光



興味深そうにサケ科魚類に見入る中国人留学生たち

学生で東京外国大修士1年の張馨さん(24)は「東京の景色とは全然違う。ロシア人が住んでいる島がこんなに近いのにはびっくりした」と驚きの様子だった。

町は昨年から大学生や留学生を対象に地域素材を生かした「フィールドスタディーツーリズム」の誘致に力を入れているが、商工観光課の金田昭男課長は「これを機に受け入れ団体との信頼関係を構築していきたい」と力を込めている。

留学生は町内に5泊6日滞在。2日間ホームステイするほか、スノーシュー体験や地域のまつりでイグルーづくりに参加するなど、道東の冬ならではの体験を行う予定だ。

(前田大介)

内モンゴル大からの交換留

し、日本文化を深く知ってもらおうと企画した。

体験型観光を推進する標津町は6日、首都圏の大学や専門学校に通う留学生を対象とした初の受け入れを行った。今回来町したのは18〜28歳までの中国人留学生8人。共立国際交流奨学財団(本部・東京都)を通じて訪問しており、北海道の田舎暮らしを体験

この日、留学生は標津サ-

モン科学館を見学。同館の市

村政樹学芸員のサケ科魚類

の生態などについての説明に

熱心に耳を傾けた。また、同

館の地上30mにある展望室か

ら、約20分先の北方領土・国

後島や根釧台地の大平原の眺

北海道新聞

根室
NEMURO

中国人留学生が冬満喫

川北冬まつりイグルー作りに汗

【標津】町が初めて地元のひとと汗を流し受け入れた中国人留学生の研修旅行が9日から始まり、10日は川北の冬まつりの会場で雪の家「イグルー」作りに訪れたのは、東京の

大学や日本語学校に通う中国人留学生8人で、9～14日に滞在。10日は雪がほらつく中、町民7人とイグルー作りに熱中した。歓声を上げながら雪の塊をのこぎりで切った

り、町民から「重いけやホタテ、牛乳がおいしい。ホームステイ先でひな人形やこいのぼりの写真を見せてもらい、日本の文化は素晴らしいと感じた」と声を弾ませる。

学生を支援している東京の団体から打診を受けた町エコ・ツーリズム交流推進協議会(千葉元会長)が、留学生に標津の文化を知ってもらう体験プログラムを用意。留学生1人を家庭に受け入れた

けられ雪のブロックを運ぶなどした。また、11日の冬まつり本番では、運営スタッフとして働いたり、スキーやホタテの貝むきなどもする。昨年4月から東京の日本語学校で学ぶ黄勳さん(19)は、広東省出身。IIは授業やアルバイトで忙しく、日本で旅行するのは初めて。「白い雪原がきれいで、サ



地元のひととイグルー作りに熱中する中国人留学生